

# 平和の大切さを

# 伝えるために

8月6日、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が広島市の平和記念公園で行われ、本市から市内公立中学校の生徒代表16人を含む22人の平和使節団が参列し、原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげました。

また、各中学校の生徒などが、平和への願いを込めて折った千羽鶴約2万羽を公園内にある「原爆の子の像」にささげられました。

副総務課 ☎826・1111 内線2200

## ■土浦市地区長連合会 中台義保さん



広島に原爆が投下されてから67年。一面焼け野原となった市街が現在は大都会となり、街路樹には蝉の鳴き声がジリジリとした暑さを感じさせ、当時の面影は世界遺産の原爆ドームと平和記念資料館でなければわかりません。6日の記念式典には、米国の当時の大統領トルーマンの孫、原爆投下機に搭乗した米兵の孫も遺族と並び、黙とうをし、平和のメッセージを発信。私達は献花台前にて皆で核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を祈念し献花してきました。

## ■土浦市女性団体連絡協議会 井深はるよさん



お世かえる様な広島は、青い空に白い雲、甲高く響く蝉しぐれ、脱原発のデモ行進、中高生による核廃絶の署名運動、ボイスカウ

トのプログラム・切り花配布等々、すべてが一体となって世界各国から鎮魂と平和を願って集まってくる大勢の人を温かく迎え入れてくれました。式は厳粛に進められ、その静かさの中に核廃絶に向けての高まりを感じ、平和の鐘とごども平和宣言からは、より一層事実を学び伝えていかなければならぬ使命感を強く感じました。

## ■土浦青年会議所 久保田 実さん



今回初めて広島の平和記念式典に参加させていただき、私自身改めて平和の大切さ、命の尊さを考える事が出来ました。今のこの平和な生活が先人達の多くの犠牲と、血のいしむ様な努力の上にあることを深く受け止め、私達がこれから世界の平和のために何が出来ようか考えていきたいと思えます。また、このような機会を与えていただいたすべての方に感謝を申し上げます。

## ■都和中 教諭 岩田幸一さん



広島は、67年前と同じ灼熱の太陽が降り注いでいます。原爆ドームや平和記念資料館で見えたものは、「負の遺産」としてだけでなく、ひとつひとつが私たちに「人間としてどう生きるべきか」を問うものばかりでした。多感な中学生が食い入るように見詰めるその眼に、今回の使節団の意義を強く感じました。戦争の悲惨さ、平和や命の尊さをどう受け止め、どう伝えていくのか、私たちが次世代が求められているものは大きいと改めて痛感した3日間でした。

## ■土浦一中 2年 西條颯馬さん



僕は、平和使節団としての3日間であつたことを学ぶことができました。様々な活動の中で、原爆が広島に降下された時の状況を知り、心が痛みました。これからは戦争の悲惨さ、平和の大切さについてよく考え、多くの人に伝えていきたいと思えます。

## ■土浦一中 2年 長瀬未来さん



私は、平和使節団に参加し、平和の尊さ、大切さを学ぶことができました。それと同時に、目をそらしたくなるような現実がたくさんありました。また今でも原爆によって苦しめられている人がたくさんいることも改めて分かりま

した。だから、このような悲惨な出来事を忘れないように、私たちが「次世代」へと伝えていきたいと思えます。

## ■土浦二中 2年 三谷亮太さん



8月6日、平和使節団の一員として広島へ平和記念式典に参加して来ました。戦争を知らない僕は、平和記念資料館で原爆の威力や当時の広島市の原爆被害など多くの事を学ぶことができました。言葉では表せない程の悲惨な状況でした。平和の尊さ、戦争の悲惨さを語り手となって伝えていきたいです。

## ■土浦二中 2年 菊田菜摘さん



実際に少年兵として戦っていた地元の方から聞いた話が一番心に残りました。特に、その中でも、広島の人たちの「何くそ負けてたまるか」という言葉が、私達にも、そして今の日本にも必要な考え方だと思いました。

## ■土浦三中 2年 秦野高広さん



福島の原発事故で放射線被害が過去の話でなくなつた今、広島市の原爆投下から67年目の同時刻に黙とうを捧げながら、平和を守り、人体が放射線に苦しめられる事が無い世界にしていかなければならないと、強く思いました。原爆による14万人の死を無駄にしない為に。



原爆の子の像に千羽鶴をささげました。

■土浦三中 3年 福田満里奈さん



私は平和使節団の一員として広島へ行き、戦争の恐ろしさとかある平和へのありがたさを改めて知ることができました。今は明るい街の広島ですが、昔は原爆が落とされ、悲惨な思いをしていったということを資料館で学びました。だから私は、今の平和をしっかりと守っていくという強い気持ちを忘れず、一日一日を大事に過ごしていきたいと思います。

■土浦四中 2年 米沢汐音さん



僕は、平和使節団として広島へ行つて、平和の大切さや戦争のおそろしさを実感することができました。また、67年前に起きたことは、日本人として決して忘れてはならないことだと思いました。だから広島で知ったことや学んだことを友達などに話して、平和への

思いを一つにし、二度と戦争が起らない世界にしたいと思っています。

■土浦四中 2年 石塚菜々さん



広島で私は、たくさんのお話を学びました。特に、原爆ドームを見たときは、原爆の恐ろしさが改めてわかりました。広島で学んだことを家族や友達に伝えていきたいです。そして、核兵器や戦争のない平和な世界を目指していきたいです。

■土浦五中 2年 上田浩生さん



平和使節団として広島平和記念式典に参加し、たくさんのお話を学ぶことができました。広島では、平和記念資料館、原爆ドームの見学、また、記念式典、灯籠流しの参加を通し、戦争の悲惨さを肌で感じる事ができました。同じ過ちを二度と繰り返さないよう、平和と命の尊さを多くの人に伝えていきたいと思っています。

■土浦五中 2年 佐藤衣真さん



私は、この2泊3日で広島の実情に触れ、平和の尊さ、戦争の悲惨さを様々な所から感じる事ができました。また、沢山の体験を通して、原爆や核兵器を作って試すのは、絶対にあってはならないことだと思いました。そして、学

んだことや体験したことを、皆に伝えていき、広島への理解を深めていってほしいです。

■土浦六中 2年 土屋優太さん



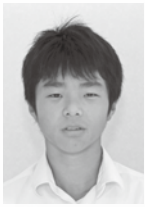
広島は、想像以上に都会でしたが、爆心地に近づくにつれて空気が変わります。「原爆ドーム」を目にして、衝撃を受け、平和記念資料館では原爆の恐ろしさを実感しました。広島で感じたことは、現代を生きる我々が、心に刻み、後世に伝承するべきだと思います。

■土浦六中 2年 二宮明莉さん



今回、土浦市平和使節団に参加し、平和について改めて考えました。広島での平和活動のあり方は様々でしたが、平和への思いは皆同じだと思いました。私は、自分から平和に繋がっていききたいと思っています。有難うございました。

■都和中 2年 星 慧祐さん



広島では、平和のありがたさ、戦争の恐ろしさを深く実感することができました。海外の方々も多く参列し、世界中の人々が原爆への反省と平和を追求し、願する姿が見られました。私も平和の願いや命の尊さを強くもつことができた

た3日間でした。

■都和中 2年 石島由唯さん



今回、広島平和記念式典に参加して、原爆の恐ろしさや未だに被爆者として苦しんでいる方々が、大勢いらつしやることを知りました。二度と過ちを繰り返さないためにも、私たち一人ひとりが、平和のためにできることを行動していかなければならないと思いました。

■新治中 1年 阿野千吏さん



今回参加して、原爆の恐ろしさを改めて感じました。子どもが原爆で亡くなり家族に会えなくて辛かっただろうし、親が我が子と会えなくなつて悲しかっただろうと思います。核兵器がなくなら、お互いを認め合い、平和に過ごせるようになっていきたいと思います。

■新治中 1年 佐藤柚香さん



今回初めて広島に行き、思ったことは、あんなすてきな広島を瞬間にして消してしまつた爆弾を、この世界から無くすべきだと言うことです。被爆した人たちは、言葉では表せられないくらい悲しみを抱えていると思います。私はそれを理解し、みんなに広めていきたいです。

(原文のまま)